

日本語教育における「～がる」の扱われ方の現状と課題

韓 金柱

東京外国語大学大学院地域文化研究科大学院生

hanjinzhu@yahoo.co.jp

1. 研究の目的

日本語の感情形容詞（「悲しい」等）は、第三者を主語として用いることができない。その際は、形容詞の語幹に「がる」をつけ動詞化した形「～がる」（「悲しがる」等）で用いられる。本稿では、このような「～がる」の意味と使用条件が日本語教育においてどのように扱われているのかについて分析を行い、その問題点を整理する。そして、どのように指導すれば、「～がる」の意味と使用条件を十分かつ的確に示すことができるかを提案することを目的とする。

2. 「～がる」の意味・用法

韓（2010）では、「～がる」の意味・用法に関する先行研究の記述について問題点¹を指摘し、様態の「そうだ」と比較して接尾辞「がる」の意味・用法について考察を行った。そこでは、「対象となる人物が示している外的な様子²」と「対象となる人物の内面³」、および「総合的な知識⁴」という3つの観点を立て、分析を行った。以下、その分析結果をまとめて示す。

2.1 「～がる」の意味

接尾辞「がる」は、話者が、対象となる人物が示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付けてとらえていることを表す。

2.2 「XがAがる」の3つの用法

- ◆ 用法1：話者が、対象となる人物Xが示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の『Aである』という内面の

¹ ①「～がる」という表現が用いられる時、主語に当たる人物が必ずしも内的にその形容詞で表される気持ちや状態にあるとは限らない、②「～がる」という表現が用いられる時、主語にあたる人物の「内的状態」と「外に表れた様子」は必ずしも一致するとは限らない、③「～がる」という表現が一人称で用いられる時、必ずしも、自分自身の「以前」に抱いた感情・感覚（「むかし」のこと）をとらえて、それを客体的に眺めているとは限らない、④様態の「そうだ」との違いが明確に記述されていない、という各点において十分でないと考えた。

² 対象となる人物が発した言葉、示した態度、動作、動き、表情などのこと。

³ 対象となる人物の心理状態のこと。

⁴ 話者が、外的な様子を、その内面と関係付けてとらえる際に用いる知識のこと。つまり、人がある感情を抱いている際に見せる表情や態度、行動などに関する一般的な知識、および話者の頭の中に蓄積されている対象となる人物に関する知識（その人物の普段のふるまい、またはその人物の背景など）のこと。

感情の表出であるととらえていることを表す。

(1) 彼女は机を叩いて、悔しがった。

- ◆ 用法2 : 話者が、対象となる人物Xが示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、対象となる人物の内面はその示している外的な様子と一致せずやはり『Aである』ととらえていることを表す。

(2) 彼女は顔には出さなかったが、心の中では悔しがっていた。

- ◆ 用法3 : 話者が、対象となる人物Xが示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の『Aであるふりをしよう』という目論見の表れであるととらえていることを表す。

(3) 彼女は表面上は机を叩いて悔しがったが、心の中では喜んでいた。

3. 日本語教育における「～がる」の扱い

3.1 日本語文法および日本語教育に関する参考書等における扱い

日本語文法および日本語教育に関する参考書等を見ても、いずれも「～がる」のこのような意味と使用条件が的確に捉えられていない。

岡本他(2010)は、「Aがっている」を、誰かが「自分の意志や気持ちを外に強く表している様子」を見たり聞いたりした時に、それを人に伝える時の表現であるとしている。しかし、必ずしも対象となる人物の意志や気持ちが“外に表れる”とは限らない(用法2)。

田中(2001)は、「たがる」は一人称について述べる場合にも使うことがあると指摘している。例えば、例として「わたしがお菓子を食べたがると、祖母はすぐを買ってくれる」などを挙げている。また、「たがる」はやはり対象となる人物の希望・希求の気持ちを外に表すことを指すとしている。しかし、岡本(2010)で問題点として指摘したように、必ずしも対象となる人物の希望・希求の気持ちが“外に表れる”とは限らない。

友松他(2007)は、「がる」は「ほしい・Vたい、痛い・うれしい・残念だ」などについて、3人称の要望・希望、身体的感覚、感情を表すとしている。しかし、先行研究の成果に照らしてみると「～がる」は必ずしも3人称について述べるものではない。

松岡(2000)は、第三者が感情形容詞の主語になる場合の一つとして「～がる」を挙げている。ここでは、「～がる」は、やや「批判的な意味」が加わるので注意が必要であるという指摘がなされている。ただし、その「批判的な意味」がどのようなものかについては詳しく述べていない。

3.2 日本語教科書およびそれに付随した教師用指導書・文法解説書等における扱い

ここでは、『初級日本語 上・下』(全28課、日本の大学に進学を希望する留学生を対象)、『直接法で教える日本語』(全28課、教授の指針となる教師用指導書)、『初級日本語 [げん

き] I・II』(全23課、日本語クラスで初めて日本語を学ぶ人を対象)、『新文化初級日本語II』(全36課、将来日本の大学や専門学校に進学することを希望し、初めて日本語を学ぶ学習者を対象)を対象とし、「～がる」がどのように扱われているのかについて見た。その結果、その問題点は、大きく以下のような3つに整理することができる。

一つは、いずれも「～たい/ほしい」は、一人称について述べる(例えば、「私は～たい」)ものであるのに対し、「～たがっている/ほしがっている」は三人称について述べる(例えば、「××さんは～たがっている」)ものであるというような単純な構図をもって「～がる」を提示していることである。このように示すことによって、以下のような間違いが生じることが予測される。

・[「～がる」を使うと不適切な場合]

(4) *昔の人はお菓子を食べたがっても、我慢していた。(三人称)

・[「～がる」を使わないと不適切な場合]

(5) *私がおもちゃをほしいと、父はすぐ買ってくれた。(一人称)

二つ目は、いずれも「私は～たい」→「××さんは『～たい』と言っている」→「××さんは～たがっている」というような順で「～がる」を提示していることである。しかし、「～がる」は対象となる人物が、必ずしも「～たい」ということを“口に出して”言っている場合のみに用いられるわけではない。例えば、「彼女は試合に負けて、机を叩いて悔しがっていた」のように、対象となる人物が示した態度について述べる場合もあり、また「彼女は顔には出さなかったが、心の中では悲しがっていた」のように対象となる人物が言葉や態度を特に外に示していない場合にも用いられる。

三つ目は、いずれも「～がる」の意味を分かりやすくするための文脈の工夫が十分になされていないことである。例えば、『初級日本語 [げんき] I・II』『新文化初級日本語II』では、「～がる」を「文型」で短文の形で簡単に示しているだけである。

ただし、『初級日本語 下』では、本文の中でも「～たがる」を提示している。本文は、雪の日に「タンさん」と「田中さん」が、北の国の厳しさについて話している会話文となっている。その会話文の中で「タン：前に本で読んだのですが、地方から出てきた若者は、国へは帰りたがらないようですね」と提示している。ここでの「たがらない」の使用文脈を見てみると、普通と違った様子であるという文脈を想定して提示されているのではないと思われる。また、「～がる」が使われる際に見られる特徴的な要素(例えば、「…ので、～がっています」「…と、がります」)の提示についての工夫もなされている。しかし、「～がる」は、その他にどのような文脈で使われるのかについて考える必要があると思われる。

4. 本稿の提案

本稿では、「～がる」の意味・用法については、第2節で述べた研究成果を生かし、①

話者の判断、②外的な様子と内面という2つの観点から指導することを提案する。また、意味を分かりやすく指導するためには、適切な文脈およびその文脈で特徴的に見られる要素についても工夫する必要があると考える。

5. 「～がる」の実際の使われ方

「～がる」は、実際に以下のような文脈で使われていると思われる。

「～がる」が使われる文脈	例文
だだをこねる 【「たい」「ほしい」】	(6) 弟はお菓子を見ると、いつも欲しがる。 (7) 私がお菓子を食べた <u>が</u> ると、祖母はすぐ買ってくれる。
普通（周りの人）と違った様子である	(8) あの子は、ゲームをほしがらない。 (9) 私だけが面白 <u>が</u> っていたのか。
大したことはないのにそのような振る舞いをする	(10) 彼女はちょっとしたことですぐ怖がる。 (11) 彼女は何でもやりたがる。
「相手を知っている、対象となる人物に対しての情報」と「対象となる人物の実際の内面」とに食い違いがある	(12) 昨日、お母さんに会ったけど、寂し <u>が</u> っていたよ。 (13) 私は今とても苦し <u>が</u> っています。

6. 日本語教育における「～がる」の扱いの課題

- ☆ 「～がる」の意味をどのようにとらえるか。
- ☆ 「～がる」をどのような文脈で提示するべきか。
- ☆ 「～がる」をどのレベル、どの段階で扱うべきか。

引用文献

- 岡本牧子・氏原庸子（2010）『くらべてわかる 初級日本語表現文型ドリル』Jリサーチ出版
- 韓金柱（2010）「接尾辞『がる』の意味・用法—様態の『そうだ』と比較して—」『東京外国語大学 大学院 博士後期課程論叢 言語・地域文化研究』第16号 東京外国語大学大学院 pp.271-284
- 坂野永理・大野裕・坂根庸子・品川恭子（1999）『初級日本語〔げんき〕Ⅰ』The Japan Times
- 坂野永理・大野裕・坂根庸子・品川恭子・渡嘉敷恭子（1999）『初級日本語〔げんき〕Ⅱ』The Japan Times
- 田中稔子（2001）『田中稔子の日本語の文法—教師の質問に答えます—』福沢英敏
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター編著（2010）『初級日本語 上・下』凡人社
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター指導書研究会編著（2009）『直接法で教える日本語』東京外国語大学出版会
- 文化外国語専門学校編著（2000）『新文化初級日本語Ⅱ』凡人社
- 文化外国語専門学校 日本語課程編著（2000）『新文化初級日本語Ⅱ 教師用指導手引き書』凡人社
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2007）『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク
- 松岡弘監修（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク